

島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS



CONTENTS

- 2・3 秋の企画展「出雲国誕生と奈良の都」特集
- 4・5 学芸員通信 ほか
- 6 古代文化センターだより
- 7 山陰歴史回廊 ほか
- 8 秋のイベント・行事案内／企画展スケジュール

2009. SEPT vol. 11

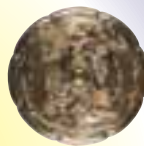
出雲国

誕生と奈良の都

平城遷都一三〇〇年



新しくできた
出雲国府だっ！
のぞいてみよう！



新しい時代を、のぞいてみよう！

ぼくは、^{ともまる}友麻呂！ぼくと一緒に

出雲国

隠岐国

石見国



2009年10月9日(金)～12月13日(日)

企画展 「出雲国誕生と奈良の都」へのご招待

いまから1300年ほど前、『出雲国風土記』が書かれたころのことです。日本の中心地は奈良にあり、政治や行政の権限が一極に集中した中央集権国家の時代でした。ここ島根県地方は出雲・石見・隠岐という3つの国に分かれ、同じ日本海側の鳥取や兵庫・京都の一部をあわせて山陰道でくくられていました。

時代は下って130年ほど前の明治時代に、今の行政単位である島根県が誕生します。面白いことに島根県は今もこの旧3国に相当する地域に大きく分かれて強い地域色がみられます。この個性はと考えると、先の古代律令制の導入による地方行政の枠組みが大きく影響しているように思われます。

本展覧会では、この時期を地域形成の画期と捉えながら、前半で当時の地方制度がどのような仕組みのものであったか、また後半で出雲国がいつどのようにしてできたのか、あるいは出雲国が律令制を導入する中、どのような特色ある地域を形成していたのかをみようとするものです。いわば

前者が奈良時代の出雲国の入門編であり、後者がその誕生のプロセスや地域色を問題にした応用編とでも言えるでしょう。こんな風に紹介すると、なんだか小難しそうで敬遠されるのかもしれませんが、でも、ここは一度展示会場をご覧ください。意外と知らない古代の島根や山陰の姿が、最新の調査研究の成果とともにかいま見えるものと思います。

それともう一つ大きな見どころをご紹介します。くしくも来年は奈良に都が置かれてからちょうど1300年目、奈良時代を取り上げた本企画展に、特別コーナー「平城京・正倉院宝物・古代銭貨」を設けます。当時の政治の中心地・平城京跡の発掘品や、天平文化の薫り漂う正倉院宝物(模造品)、さらには皇朝十二銭で知られる古代銭貨の一大コレクションが展示されます。この機会に是非、1300年前の出雲を、そして奈良をのぞいてみてください。



挂甲武人像模型
(奈良文化財研究所)



平城京出土の土馬
(奈良文化財研究所)



鉄穴内遺跡出土の鍛冶道具 (島根県埋文センター)



平城京出土の人形
(奈良文化財研究所)



須恵器の原形とされる金属器(法隆寺)



出雲産の須恵器(松江市教育委員会)



平城京出土の再現絵馬
(奈良文化財研究所)



青木遺跡出土の絵馬
(島根県埋文センター)

■会期 平成21年10月9日(金)ー12月13日(日)

■会場 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

■主催 島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター・(財)自治総合センター

■後援 朝日新聞松江総局・毎日新聞松江支局・読売新聞松江支局・産経新聞松江支局・中国新聞社・山陰中央新報社・新日本海新聞社
島根日日新聞社・NHK松江放送局・BSS山陰放送・日本海テレビ・山陰中央テレビ・エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン株式会社
出雲ケーブルビジョン株式会社・ひらたCATV株式会社・社団法人平城遷都1300年記念事業協会

明らかにされる出雲国府の姿!

出雲国の政治・文化の中心である出雲国府は、松江市大草町を中心とする地区にありました。昭和43年に発掘調査が始まって以来、国庁や意宇郡の郡家・軍団・駅などの官庁街が存在したことが明らかになり、7世紀末から10世紀の国庁の建物配置や変遷も分かってきました。また、金工や漆工などの各種工房の存在も確認され、国府周辺には古代寺院も建立されていました。今回の企画展では、出雲国府成立の前史をふくめた全体像を紹介してみたいと思います。



写真は国府跡空中写真と出土柱根

豪族と仏教の出会いにも注目!

国府が成立する前夜の7世紀は、全国的に仏教が広がって行く時期です。山陰地方の豪族たちも仏教文化に触れ、寺院の建立などをはじめました。



◆齋尾廃寺出土の塑像仏頭
(京都国立博物館蔵)
鳥取県琴浦町(伯耆国八橋郡)には、法隆寺式の伽藍配置をもつ寺院が7世紀の後葉に建立されました。この仏像は八橋郡の豪族が信仰していたのでしょうか?



◆蔵見3号墳出土の鷗尾付陶棺
(鳥取市教育委員会蔵)
陶棺の両端に注目してください! 寺院の屋根を飾った鷗尾が付いています。豪族の棺に仏教的なデザインが用いられた珍しいものです。

企画展関連連続講座

□第1回 「企画展解説～今、なぜこのテーマ、時代を取り上げたか～」

10/10(土) 当館 専門学芸員 鳥谷芳雄

□第2回 「古代都市・平城京を語る」(仮)

10/24(土) 元奈良文化財研究所長 町田 章氏

□第3回 「奈良時代の出雲」(仮)

11/ 7(土) 当館 名誉館長 上田正昭

□第4回 「天平の美・正倉院宝物の世界」(仮)

11/21(土) 宮内庁正倉院事務所長 杉本一樹氏

□第5回 学芸トーク「“出雲国誕生と近隣諸国”～山陰地方の過去・現在・未来を語る!？」(仮)

12/ 5(土) 島根県埋蔵文化財調査センター企画員:平石充氏
浜田市教育委員会主任主事:榊原博英氏
倉吉市教育委員会文化財課長:真田廣幸氏
当館 学芸部長:松本岩雄

■お問い合わせ・申し込み

いずれも[時間]13:30～15:30

いずれも[場所]古代出雲歴史博物館 講義室 [定員]100名
[申込]電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員になり次第締切とさせていただきます。

特別関連企画 第8回神在月古代文化シンポジウム 律令制国家の成立と出雲

日時:10月18日(日)13時～17時30分 場所:大社文化プレイスうらら館だんだんホール

【基調講演】

「出雲古代史研究への期待」 国立歴史民俗博物館館長平川南氏

【問題提起】

「出雲国造のクニと令制国出雲」 東京大学大学院教授佐藤信氏

「律令制国家の成立と政治的景観の出現—役所と寺院—」 島根大学教授大橋泰夫氏

「その後の島根を規定した律令制国家の行政区分」 荒神谷博物館長藤岡大拙氏

【パネルディスカッション】

「律令制国家成立が出雲に与えたインパクト」

パネリスト:平川南氏・佐藤信氏・大橋泰夫氏・藤岡大拙氏

コーディネーター:野々村安浩島根県古代文化センター専門研究員

■応募方法

島根県古代文化センターまたは古代出雲歴史博物館宛に往復葉書・FAXでの(氏名・住所・電話番号・年齢記入)申し込みか古代出雲歴史博物館ホームページ内[神在月古代文化シンポジウム]申し込みフォームからお申し込みください。

■申し込み先(お問い合わせ先)

島根県古代文化センター

〒690-0887島根県松江市殿町1番地島根県庁第3分庁舎内
TEL0852-22-6725 FAX0852-22-6728

島根県立古代出雲歴史博物館

〒699-0701島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL0853-53-8600 FAX0853-53-5350

企画展 平城遷都1300年

「出雲国誕生と奈良の都」

関連イベント

今年の秋は… 古代出雲歴史博物館が、むすんでひらく

『万葉楽』『天平楽』の しまねフィールドです!

企画展「出雲国誕生と奈良の都」関連《万葉楽★おでかけ講座》

■おでかけシリーズ① 「万葉の歌や草花、住居を愉しむ—秋の風土記の丘の天平学講座」

10/12(月)

(八雲立つ風土記の丘資料館:10時集合~12時)
※万葉のお話/風土記植物観察/奈良時代住居体験など

■おでかけシリーズ② 「どっこい生きてる入海の生き物たち—ゴビウス観察会」

10/18(日)

(宍道湖自然館ゴビウスとなりグリーンパーク:10時集合~12時)
※宍道湖の生き物今昔/グリーンパーク宍道湖畔で実際に生き物採集・観察します。
※濡れてもよい服装・靴・(長靴・サンダル不可/できれば着替えのご用意をお願いします。)

いずれも現地集合解散(小雨決行):定員30名
各施設の入館料が必要です。

お問い合わせ・お申込みは
古代出雲歴史博物館へ



万葉楽・天平楽 スペシャルイベント ————— 11/3(火・祝)〈古代出雲歴史博秋まつり〉

◎『日本の秋をバイオリンの音色で』(バイオリニスト:勝部恵美子, ピアニスト:植田菜穂)

◎『恋の歌?それとも政治の歌?—門部王・人麻呂さんってどんな人だろう—』(風土記を訪ねる会代表:川島芙美子)

企画展「出雲国誕生と奈良の都」関連《天平楽★ワークショップ》

■11/8(日) 13:30~15:30 『天平アートを愉しむ —銀粘土で作る天平の意匠』

■11/29(日) 13:30~15:30 『天平を味わう —奈良の都のごちそう体験』

有料(材料代+企画展観覧料) 各定員20名(要事前申し込み)

〈風土記の丘周辺イベント情報〉

- ・月の宴…佐陀神能など 10/4(日)
- ・国府まつり…出雲国府跡 10/25(日)



風土記の丘:「奈良時代復元住居」

連携館の ————— 秋の企画展のご案内

〈八雲立つ風土記の丘資料館〉

- ・企画展「意宇平野周辺の横穴墓」

平成21年9/9(水)~12/21(月)

〈宍道湖自然館ゴビウス〉

- ・企画展「タツノオトシゴ・ヨウジウオのなかまたち」

平成21年9/16(水)~10/19(月)

[WANTED]

搜索中!“百年の思い出”

~ 一畑電車の資料を捜しています。

明治45年(1912)に一畑軽便鉄道株式会社が創設されてほぼ1世紀となります。当館ではそれを記念して平成22年4月23日(金)から7月4日(日)まで一畑電車をテーマとした展覧会、特別展「BATADEN」(仮称)を開催します。そこで当館では、一畑電車に関する資料を広く収集しています。一畑電車や一畑パークに関する資料や写真などをお持ちの方はぜひご連絡ください。なお、貴重な資料は借用させていただき、展示させていただく場合もございます。また、思い出話等もぜひお寄せください。

〈捜している資料例〉

一畑電車や一畑パークの古い写真、パンフレット、切符、模型など。

ご連絡先 島根県立古代出雲歴史博物館 展覧会担当:的野(まとの)
TEL 0853-53-8600 FAX 0853-53-5350

特別展『BATADEN』

展示資料

(仮称)



むすんでひらく「記念日」事業

普及交流グループ課長 浅沼政誌



大田市大森町

古代出雲歴史博物館が2009年4月からスタートさせた展示品や文化財にまつわる「記念日」事業は、これまで石見銀山遺跡の世界遺産登録を記念する「銀の記念日」、荒神谷遺跡銅剣出土25周年を記念する「銅剣記念日」を実施してきました。

この「記念日」事業は、関係する施設との連携開催が大きな特色となっています。

「銀の記念日」では、7月2日の世界遺産登録日を中心にして8月2日までの期間中、石見銀山世界遺産センター、島根県立三瓶自然館(サヒメル)、大田市大森町内観光施設と連携し、施設の無料開放(大森町内)や映画上映、公開講座や体験イベント、スタンプラリーを実施しました。

「銅剣記念日」では、7月12日の銅剣発見日を中心に、荒神谷博物館、加茂岩倉遺跡ガイダンスセンター、宍道菟古館と連携し、記念式典開催と記録映像の公開、講演会や体験イベントの実施、荒神谷博物館と古代出雲歴史博物館を結ぶバスの運行(両館ボランティアスタッフによる道中での案内解説付き)などを実施しました。現在、4施設をまわるスタンプラリーも実施中です(10月14日まで)。

こうした「記念日」をテーマとした連携事業は、各施設の取り組みを共有化し、協働した情報発信ができ、より多くの人に周知が図られます。あわせて、島根県が誇る資源を風化させることなく、保護・活用を考えていく機会になるとも考えています。

古代出雲歴史博物館は、今後も「記念日」を核にした連携事業を展開していきます。次はどんな記念日が登場するのでしょうか？お楽しみに！



荒神谷博と古代出雲歴史博を結ぶバス

INFORMATION

各種研修・会合を、しまねのガイダンスセンター『歴博』で！

《歴博コンベンション!》のおすすめ

「博物館で、一日。」

各種会合・研修 + 学芸員による豆知識講座 + 展示観覧 など

学芸員による豆知識講座メニュー

「企画展のみどころ紹介」(「出雲国誕生と奈良の都」「島根の神楽」……)
 「出雲大社の歴史と巨大神殿」「日本の源流にふれる古代出雲」
 「出雲国風土記の世界」「全国に誇る島根の宝」「島根の古墳文化」
 「出雲神話」「出雲の神在祭」「隠岐の芸能」
 「青銅器王国」「島根のたたら製鉄」「世界の石見銀山」など

利用可能施設

- 講義室 定員100名まで。要予約。(但し、原則として展示観覧を前提とします。)
- 体験工房 要予約(同上。但し、体験実費が必要です。)

「銅・剣・鋳・造」 弥生人の匠に迫る -青銅器鋳造技術の復元研究-

古代文化センター主任研究員 増田 浩太

古代文化センターでは、平成20年度から4年間の計画で弥生時代青銅器の研究を進めていますが、その中心となる調査・研究の一つに、当時の鋳造技術を復元するプロジェクトがあります。今日、多くの博物館では銅剣や銅鐸の再現品が展示されていますが、当時の鋳造技術が解明されているわけではありません。どうやって青銅を溶かしたのか、銅剣や銅矛の刃は何で研いだのか、などむしろ分からないことの方が多いのです。

今回の復元実験では、青銅器生産遺跡から出土した鋳造道具を再現し、これを組み合わせてどのように青銅を溶かしたのかを検証しました。



「土器炉をふいごで加熱するの図」

近年の研究では、弥生時代にはルツボや造りつけ溶解炉を使わず、土器の中に炭と青銅を入れて直接加熱する「土器炉」を用いていた可能性が指摘されています。実験してみると、炭の量や送風方向など想像以上にシビアな調整が必要で、なかなかうまく青銅が溶けてくれません。復元実験を担当する特任研究員の劉治国氏とともに、失敗しては落ち込み、検証して悩み、改良して再実験の日々が続いています。

さて、7月12日は荒神谷遺跡から銅剣が発見された日です。25周年を迎えたこの日、記念イベント『25年目なので銅剣を作っちゃいます』を行いました。記念日に失敗は許されませんが、事前のテレビ取材でもあえなく失敗。アナウンサーに「失敗は成功のもとですから」と慰められる始末で、当日ははまだ成功のおぼつかない土器炉の使用はあきらめ、簡易な溶解炉を突貫工事で製作し、青銅を溶かしました。荒神谷銅剣の鋳型は「石製」といわれていますがまだ確証はありません。今回はあえて「土製」鋳型を用いてそのでき具合を確認することにしました。不安を残しつつの作業でしたが、結果は大成功。目立った鋳造欠陥もない、素晴らしい銅剣が2本でき上がりました。今回のイベントは成功するため妥協した部分も多く、弥生時代の鋳造とはほど遠いものでした。しかし、数多くの失敗や試行錯誤を通して、当時の鋳造方法が徐々に見えてきたように思います。来年の記念日にはより「弥生時代に近い」鋳造がお見せできると思います。



「鋳型に青銅を流し込むの図」



「天晴れ！銅剣完成の図」

[出雲への道・出雲からの道]

テーマ研究

「古代出雲の多面的交流の研究」

古代文化センター主任研究員 森田 喜久男

今、進めているこの共同研究、どういった形でまとめ、古代出雲歴史博物館の企画展示に結実するのでしょうか。私たちの共同研究は大きく2つの形でまとまる予定です。

第1部は、「イヅモ的世界のバリエーション」。この第1部では、さまざまなイヅモ像を提示します。皆さん、イヅモと言えば、島根県出雲地方に限定してとらえていませんか。古代のイヅモは、大きな広がりを持っていました。出雲臣という氏族は山背国愛宕郡出雲郷にもいたし、出雲大社の祭神、オオクニヌシの別名、オオナムチを祭る神社は日本海沿岸に広範囲にわたって分布しています。そのような列島各地の出雲氏やオオナムチに関わる古文書や歴史美術品などを並べたいと思っています。果たしてイヅモは単純に「^{よみのくに}黄泉国」、「死者の国」といった暗いイメージだけで終わる場所なのか…。この点を明らかにするためにイヅモが古代王権の中で果たした役割を、イヅモから天皇に献上された神宝を通して明らかにしていきます。

第2部は、「イヅモとヤマトとの交流のルート」の解明です。皆さん、イヅモからヤマトへの交流のルートは、日本海沿岸の水上交通のルートや山陰道だけに限定されないんですよ。中国山地を舞台に活発な交流が展開していたのです。その交流のルートを解明すると共に交流のルートに沿って往来したヒト・モノに関わる古文書や土器、絵巻物、街道図なども展示します。秋になったら各地の博物館をめぐる資料調査です。果たしてどうなることやら。

「さんいんさんぽ」

～ 出雲弥生の森博物館 / 出雲市 ～

出雲市は、国史跡・西谷墳墓群にしだにふんぼくぐんのガイダンス施設として、「出雲弥生の森博物館」を建設し、来年2010年春の開館を目指して準備を進めています。簸川南広域農道よすみとつしめつがたふんきゆうどうの南神立橋みなみかんだちばしのすぐ西にある、赤い屋根の建物がそれです。その目の前に西谷墳墓群史跡公園・出雲弥生の森があります。

ここでは、今から1800年ほど前、弥生時代の終わりころにつくられた四隅突出型墳丘墓よすみとつしめつがたふんきゆうぼが6基あり、大きなものは一辺50mをこえる規模です。島根大学考古学研究室による発掘がおこなわれた3号墓（約55m×40m）には、紺色のガラス勾玉などの装身具類てっけんや鉄剣などが副葬されていきました。さらに、墓の上からは巨大な柱の跡や300個をこえる土器がみつきり盛大な儀式の様子もわかりました。まさに、弥生時代の「出雲の王墓」です。

「出雲弥生の森博物館」は、島根大学のご協力をえて、これら西谷3号墓の資料を展示するとともに、装身具や鉄剣を復元製作し、また、10分の1模型で王の葬儀当日の様子を再現する予定です。さらに、出雲平野の弥生時代像を解明し、王墓出現の背景にも迫りたいと思います。

これとあわせて西谷墳墓群史跡公園の整備も進行中です。今年度は、2号墓の復元工事をおこないます。これも来年春にお目見えの予定です。

出雲市内には、弥生時代の遺跡のほかにも、今市大念寺古墳いまいちだいのんじや上塩冶築山古墳かみえんやつきやまなどさまざまな古墳や、集落跡、古代寺院跡、役所跡などがあります。展示室の後半部分では、古墳時代以降の出雲平野の姿も展示していきます。現在調査中の未盗掘の中村1号墳については模型で埋葬当時の姿を見ていただこうと考えています。

また、「出雲弥生の森博物館」は、出雲市の遺跡調査を支える拠点（埋蔵文化財センター）の役目ももっています。すでにプラスチックコンテナ数千箱にもものぼるこれまでの出土品を収蔵するのも大切な機能です。その状況もみていただけるように、と収蔵庫の一部を見学可能にしました。

出土品などの考古資料や歴史資料にふれながら、ふるさと出雲の歴史を知り、感じていただける施設、そして西谷墳墓群史跡公園もあわせて楽しんでいただける施設となるよう職員一同、奮闘中です。

11月21日（土）には、施設見学を盛り込んだ「2009古代出雲歴史探訪ミステリーウォーク」を予定しています。また、開館後に博物館でおこなうさまざまなイベントのお手伝いなどをいただく「博物館ボランティアスタッフ」も募集中です。詳しくは出雲市役所ホームページ、または下記へお問い合わせください。



出雲弥生の森博物館

〒693-0011 島根県出雲市大津町2760番地
TEL 0853-25-1841(二コにこ イズモヤヨイ)
FAX 0853-21-6617
HP <http://www.city.izumo.shimane.jp>
メール bunkazai@city.izumo.shimane.jp

RESEARCH

古代出雲歴史博物館ならではの…博物館実習2009



慎重に、丁寧に(考古資料の梱包実習)



資料の取扱い方を学芸員から学びました

古代出雲歴史博物館では、学芸員資格取得を目指す大学生らを対象に、例年、博物館実習生の受け入れを行っています。今年は8月17日から8月23日までの7日間、23名の学生を受け入れました。実習生のみなさんには「学芸員という仕事についてはもちろん、古代出雲歴史博の活動を知るよい機会となりました」との感想をお寄せいただきました。



23人の学芸員のたまご達の笑顔



町並みを歩き、町の方々にインタビューして、まとめた成果を発表しました

10月

企画展「出雲国誕生と奈良の都」開幕

10/9(金)～12/13(日)

- ◎NHK 番組上映と講演会「発掘現場からよみがえる巨大柱と出雲大社本殿」 10/3(土)
- ◎企画展関連 おでかけ講座「万葉の歌や草花、住居を愉しむ」<八雲立つ風土記の丘> 10/12(月・祝)
- ◎銅鐸記念日プレゼント [数量限定] 10/14(水)
- ◎神在月古代文化シンポジウム <大社文化プレイスうらら館> 10/18(日)
- ◎企画展関連 おでかけ講座「どっこい生きてる入海の生き物たち」<宍道湖自然館ゴビウス> 10/18(日)

11月

古代出雲歴博♥秋まつり

11/3(火・祝)

いにしえ体験/歴博劇場/古代出雲音楽会神話の国のだんだん市など(風土記の庭一帯)

- ◎企画展関連 ワークショップ①「天平アートを楽しもう～銀ねんどでつくる天平の意匠」 11/8(日)
- ◎さんいん旅新話: 古代出雲かけめぐり隊「神迎え伝承の地をあるく」 11/15(日)
- ◎企画展関連 ワークショップ「天平を味わおう～奈良の都のごちそう体験!」 11/29(日)

12月

特集展「大社の吉兆幡」～出雲大社の正月神事にふれる～

2009年12/22(火)～2010年1/17(日)

- ◎冬休み体験楽まつり 12/23(水・祝)

～NHK 松江放送局テレビ放送開始 50 周年記念

『発掘現場からよみがえる巨大柱と出雲大社本殿』

10/3(土):午後1時30分～4時 古代出雲歴史博物館講義室

- 番組上映: NHK スペシャル「巨大神殿は実在したのか～古代・出雲大社のナゾ」(2001年放送)
- 講演: 「発掘現場からよみがえる巨大柱と出雲大社本殿」(松尾充晶島根県文化財保護主任)、入場無料、定員100人、受付: 古代出雲歴史博物館 (電話・FAX・ホームページフォーム)

“博物館さんぽ” 毎月第3日曜日



しまね家庭の日 (高校生以下無料デー)

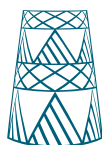
この秋、古代出雲は、アートミュージアム。

- ◎「かみありづきアートラリー」アートさがしのご縁のまちめぐり～神在月の出雲★スタンプラリー 10月10日(土)～12月12日(土)
出雲大社周辺の駅などの拠点施設・店舗・ミュージアム施設などをスタンプラリーしながらまちあるき。(実施予定)
素敵なお縁グッズプレゼント
- ◎たいしゃアートプロジェクト・門前まちギャラリー 2009(神在月の時期を中心に実施予定～神門通り/神迎の道ほか)
- ◎「つづくこと・なくなること・くりかえされること2009」木村幸恵作品展示「レイコの出雲<美術>留学」(主会場:手銭記念館)

今後の企画展のご案内

- 企画展『島根の神楽』～芸能と祭儀～ 明るい平成22年へ～ 2010年 2/5(金)～4/4(日)
- 特別展「BATADEN」～なつかしいあの頃～(仮) 2010年 4/29(金)～7/5(日)
- 特別展「千家十職と×みんなく」(仮)～茶の湯のものづくりと世界のわざ～ 2010年 7/23(金)～9/20(日)

発行/平成21年9月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: http://www.izm.ed.jp E-mail: contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん